



「和解の務め」音信

Ministry of Reconciliation in South Africa

(20-1)

Mar. 2020

金煥・朴貞玉

「神はキリストによって私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました」(Ⅱコリント 5:18)

ポチエフストロム・ニュービギニング・センター(PNBC)の理事会が今年1月9日に行われ、その場所での国民高等学校の設置を承認していただきました。これから本格的な取り組みが必要となります。これをきっかけとして、将来、信徒のための聖書・宣教学校、宣教師訓練センターも視野に入れ、進めて行く所存です。

1. PNBCの理事会

二〇二〇年も2月になりました。今、全世界が新型コロナウイルスを心配していますが、宣教同労者の皆様に全能の神のお守りがございませうとお祈りいたします。南アフリカにも中国の方の出入りが多くありますが、幸いにも未だ感染の報告はありません。続けて主の憐れみで全世界にあるように祈りつつ、今年第1回目の音信を送りいたします。

2. 最初の洗礼式

昨年9月、日本から戻った後、二人の青年と聖書研究を初めました。その中で一人、イアンと呼ばれる兄弟がはっきりと信仰告白を行い、その後も数回確認した後、洗礼を授けることにしました。昨年12月21日、こちらは水も多いため浸礼による洗礼式を行いました。南アフリカにおける、私の最初の洗礼式でした。イアン兄弟はさらに聖書を深く学び、将来献身したい意向も示しています。注意深く導く必要があると思います。



浸礼による洗礼式

3. ポチエフストロムへ

宣教中心地をステレンボッシュからポチエフストロムに移動しました。2月10日朝早く、乗用車に荷物を積んでステレンボッシュを出発してポチエフストロムに向かいました。途中、乗用車が道路の上に転がっていた石にぶつかり、パンクしてしまう事故もありました。私たちは本当に困ってしまい、不安になりましたが、ポチエフストロムにいる知合いの牧師のアドバイスで携帯電話で聞きながら、パンクした車輪をスペアタイヤに取り換え、再び走ることができました。次の日の朝ようやく目的地に着くことができました。神さまの守りと助けを感謝せざるを得ませんでした。



パンクした車輪

4. 祈りの課題

お祈りしていただきたい課題がございます。これから新しい地域での「和解の務め」が一つひとつ主の御旨にかない、着実に進んで行けるように。特に、敬虔の訓練、自立活動、宣教奉仕に献身した、主のしもべたちが集まり、アフリカの福音化のために共に祈り、共に働くことができるように。彼らの一部が共同生活しながら協力宣教をする場所、宣教センターを実現させることができるようにお祈りください。皆様の上に主の平安と恵みが豊かにありますように、お祈りいたします。

